

## 那珂市の株式会社ベジタブルテックを生徒が訪問しました。

8月28日（水）午後、「学校の近隣の企業を訪問して、地域産業の理解につなげるとともに、進路選択の参考にする」ことを目的にして、那珂高5名と水戸農高10名の合計15名生徒が、株式会社ベジタブルテック本社・第二工場を訪問して、代表取締役の植田一成様から説明を聞きました。

会社概要の動画を視聴した後、植田社長がパワーポイントで、「人工光型と太陽光型の植物工場の違い」「植物工場のメリット」「露地野菜との比較」などについて説明してくださいました。また、遠隔カメラによるライブ映像で、栽培方法（播種～収穫）、収穫後の調製、箱詰め、出荷などについて説明してくださいました。

生徒から「植物工場で使用するLEDの色」「栽培室内の温度や湿度を均一にする方法」「植物工場で生産できる他の野菜」などについて質問があり、植田社長がわかりやすく答えてくださいました。

今回、那珂市内の高校2校が合同で、初めて地域の企業を訪問しました。農業、食品製造、環境問題などに興味のある生徒が参加しました。生徒が進路を決める際の「きっかけ」になってくれるとよいと思います。

[株式会社ベジタブルテック（茨城県の植物工場）ホームページ](#)（←クリックするとつながります）

### 【生徒の主な感想】※生徒のアンケートをもとに作成

- ・人工光型の植物工場で栽培されたレタスは、価格は高いが、農薬を使用していない上、生菌数が少なく衛生的である。例えば、サンドイッチ製造工場などで使用する場合、洗浄作業はほぼ必要なく、外葉を捨てる量（廃棄物）が少ないので、その分の人件費、水道料、廃棄物処理費などのコストを削減できることを学びました。
- ・工場内で生産することにより、天候の影響を受けずに生産できるので年間を通して安定供給できることや、生菌数が少ないので野菜の鮮度が長持ちすることなど、多くのメリットがあることを知りました。
- ・植物工場で、葉菜類以外も出荷できれば、多くの野菜が年間を通して安定供給できると思う。果菜類、根菜類は、栽培できるが、長期間でコストが高くなるので経営的には難しいと教えていただいた。今後の農業の可能性を学びました。

